

○本港区エリアの良好な景観形成と魅力向上 (鹿児島港本港区景観ガイドライン)

- 本港区エリアは桜島フェリーや離島航路が就航する海の玄関口として、多様な人々が行き交うとともに、古来から産業振興や交易など鹿児島の発展に寄与してきた錦江湾の広大な静穏海域や、県民のみならず多くの人に親しまれている雄大な桜島などの美しい自然景観を望むことができ、また、歴史的建造物である鹿児島旧港施設等を有することから、これらの景観資源を活かした魅力ある交流空間を目指します。
- 特に水際線は、行き交う船と港の活動が織りなす躍動感あふれる錦江湾や、雄大な桜島への眺望、旧港湾施設による歴史を感じられるプロムナード（水際線のプロムナード）を有し、同エリアから朝日通りなどの街路を通して見える市街地のまちなみや賑わい、色とりどりの路面電車やバスが行き交う光景は、鹿児島ならではの特徴的な景観となっています。そこで、これらを活かした回遊性のある歩行者動線を確保し、歩行者目線での良好な景観を形成します。
- また、鹿児島市域を対象とする、鹿児島市景観計画（平成20年6月施行）においては、色彩や緑化等の基準が設けられています。同エリアは桜島及び城山への眺望確保のため建築物・工作物の高さにも基準が設けられていることから、建築物等の高さに配慮します。
- 以上を踏まえ、配慮の方針として、以下の3つのポイントに基づき本港区エリアの良好な景観形成を目指します。

Point 1

錦江湾や桜島，歴史的建造物等の景観資源に配慮します

Point 2

めぐり，たたずみ，のぞむことができる，歩行者目線での良好な景観形成を目指します

Point 3

多様な来訪者が行き交い集う魅力的な空間形成を目指します

○本港区エリアの良好な景観形成と魅力向上 (鹿児島港本港区景観ガイドライン)



一丁台場 (鹿児島旧港施設)



赤灯台 (鹿児島旧港北防波堤灯台)



桜島フェリーから見た北ふ頭・水族館



鹿児島市電



鹿児島市営バス



北ふ頭・南ふ頭と桜島



ウォーターフロントパーク



桜島・水族館と新波止



桜島フェリーと北ふ頭



錦江湾から見た本港区エリア

○本港区エリアの良好な景観形成と魅力向上 (鹿兒島港本港区景観ガイドライン)

- 水際線のプロムナードや、背後の市街地中心部から水際線のプロムナードへと繋がり、錦江湾・桜島、本港区エリアの歴史やまちなみ、活きた港の活動など、同エリアの魅力を感じられるルートを回遊動線（めぐりの路（みち））として設定し、景観形成に配慮することとします。
- また、同エリアの魅力を感じられる場所を回遊動線上の視点場として、錦江湾・桜島への眺望を確保する必要がある場所を「のぞみの場」、まちなみや港の活動などを立ち止まって眺める場所を「たたずみの場」として設定します。



地理院地図を使用

※本ガイドラインでは、「視点場」を、鹿兒島市景観条例に規定する視点場（遠景を眺望することができ、眺望の良さが広く市民等に認知され、眺望の良さを確保するための維持管理が継続して行われることが見込まれる場所）ではなく、景観や活動を眺める場所、としての意味で使用しています。

○本港区エリアの良好な景観形成と魅力向上 (鹿児島港本港区景観ガイドライン)

1 水際線のプロムナード ● ● ●

- 白灯台から、国の重要文化財である石積み護岸（鹿児島旧港施設（新波止・遮断防波堤・一丁台場））を経て、国の登録有形文化財である赤灯台（鹿児島旧港北防波堤灯台）へと至り、本港区の歴史を感じられる
- 錦江湾・桜島や港の活動を眺められる

2 水際線のプロムナードと中心市街地・北ふ頭・南ふ頭・住吉町15番街区を結ぶ回遊動線 ● ● ●

(みなと大通り)

- 市役所から本港区エリアへと繋がる緑地景観を楽しめる
- 水際線のプロムナードへアクセスしながら、桜島や港の活動を眺められる

(朝日通り)

- 両側に建ち並ぶビル群の間から桜島、港の活動を眺められる
- 市街地のまちなみ、路面電車やバスが行き交う姿を眺められる

(マイアミ通り)

- 港の活動、ドルフィンポート跡地やウォーターフロントパークでの活動を眺められる
- 市街地のまちなみ、路面電車やバスが行き交う姿を眺められる

(臨港道路本港区線)

- 大正年代に建造された石蔵倉庫群（当時は離島航路の荷物保管場所）の歴史性を感じられる
- ドルフィンポート跡地での活動、港の活動を眺められる

(臨港道路北ふ頭線・南ふ頭線)

- 北ふ頭・南ふ頭旅客ターミナルへアクセスしながら、錦江湾・桜島や港の活動を眺められる

○検討委員会で議論された4つの論点についての主な意見(1/4)

4つの論点	主な意見
導入機能	<p>どういった機能が必要かというゾーニングも必要だが、その前にもう一回リマインドし、どんな施設、機能が必要かということも話をしていくべき。展示場も含めてそういったものも考えていかないといけないし、市民、県民の目線の中でのアミューズメント施設や、景観を大事にする場所というのをどう確保するかという話も必要。場合によっては、道路の付け替えや、港湾計画の変更についても、10年、20年、30年という時間軸の中で考え、それを踏まえてゾーニングすべき。</p>
	<p>本港区だけではなく、しっかりとゾーンを捉えて検討していくのは必要。周辺の施設も含めてエリア全体で流動とか集客とかを考えていくことによって、本港区の評価とか価値が上がっていく。民間の資金も入れていくのだとすると、経済的に価値を高めるというのはすごく大事なことなので、この周辺を一体的に考えていく必要がある。</p>
	<p>スポーツとか文化とか芸術とかいうものの社会的価値を考えると、その効果は有効なコンテンツとして考えられる。健康というようなことで、良い影響もあると思うので、例えば子供の教育とか、才能を伸ばすとか、そういった地域を育てるといような観点でもゾーニングをしていくということが大事。</p>
	<p>ウォーターフロントも中心市街地なので、県民が望んでいるのは、都会的なフィーリングを持った港町というのを望んでいるんだろうと思う。</p>
	<p>商工会議所がつくられた「鹿児島市中心市街地及びウォーターフロントを中心としたまちづくりビジョンに関わる提言」は、良くできた優れた提言書である。中心市街地から本港区にかけての領域を魅力ある場所にしていくためのゾーニングというところからスタートしているので、それが本来の姿。鹿児島を俯瞰して将来ビジョンを描くところからまちづくりが始まり、そこに必要な機能、ふさわしい施設というものが描かれていくというのが順番。</p>
	<p>単機能だけのゾーニングでは、土日が賑わっても平日の賑わいが無いといったようなことがあるので、複合的な機能で考えるべきではないか。昼間と夜間、土日と平日、日常と非日常を時間軸で捉え、領域の全体の稼働率が平準になっていくようなゾーニングにしていく必要がある。</p>
	<p>北ふ頭や南ふ頭についてあまり議論が深まっていない。スポーツ・コンベンションセンターやサッカー等スタジアムの話があるので、どうしてもドルフィンポート跡地やウォーターフロントパークの話になってしまうが、最終的にゾーニングを考えていく上では議論のバランスとして話を広げていかないと全体像が掴めないという印象を受ける。</p>

○検討委員会で議論された4つの論点についての主な意見(2/4)

4つの論点	主な意見
公共機能の確保	<p>これだけものが入ってくると、交通の問題はどうしても考えなければならず、公共交通網をどうやって導入していくのかということと、港湾に従事する方々の機能が不全化しないかというようなこともしっかり議論を進めるべき。</p>
	<p>港湾としての機能を踏まえつつ全体像の検討を行うことを目的とするという基本原則だけは、是非、守っていただきたい。</p>
	<p>旅客船の事業者が心配しているのは、この大規模な集客施設、例えばスポーツ・コンベンションセンター、またはサッカー等スタジアム、イベントを開催した時に、駐車場は色々計画があるみたいだが、それをほとんど車で来た時にどうなるのかを本当に心配している。例えばスポーツ・コンベンションセンター、最大でこれだけの集客が1日ある場合には、どのぐらいの渋滞が発生するかとか、渋滞予測調査だとか交通流動予測調査、こういうのも一度計算を出して欲しい。</p>
	<p>ああいうところ（住吉町15番街区）に駐車場が本当にいるのか。回遊性の問題から言えば、バスターミナルをつくってシャトルバスを例えば鹿児島中央駅に出して、途中の天文館に駐車場をつくると、本当に回遊性が生まれるのではないか。</p>
	<p>（北ふ頭の奄美・喜界航路の移転は、）ちゃんと移転する場所を、もしくはターミナルとそれに関係する例えば奄美群島の方々の利便性が本当にこれでいいよと納得できるような計画を先につくってもらいたい。</p>
	<p>臨港道路を広げていただきたい。臨港道路については、谷山の方から直線的なイメージでは考えていただいたが、なかなかそううまくはいかず、今日に至っているのではないか。その辺りがスムーズになれば、荷役形態も多少近代化し、人手不足を補うような何か新しい荷役体系になるのではないか。</p>
	<p>港湾物流というものを低く見られている方はいないとは思いますが、そう感じられるような、ちょっと脇に追いやったような計画はやめていただきたい。</p>
	<p>ウォーターフロントを中心に歩いて来られる距離のFRINGE駐車場（都心部への車の乗り入れを抑制するため、駐車場を都心部の外周に計画的に配置するもの）を検討した方がいい。</p>
	<p>人流・物流は紙の上で描くのではなく、道路の上を通るわけなので、道路計画を抜きにしてゾーニングの話はしないでいただきたい。</p>
	<p>人流・物流は、ゾーニングの中でメインに来るような事柄にならないといけない。大型のクルーズ船が入ると、大量の水や食料を船まで届けなければならないことも考えていただきたい。</p>
<p>北ふ頭、南ふ頭は離島航路の発着場で、90万人近い方々が利用している他、約3万台の車両、20万トン近い貨物の出入りがある。ふ頭に行く道が1本しかない中で、大きな施設ができて、駐車場が両サイドにできると、ふ頭を利用する方々がスムーズに行けるかどうか、1回動線をちゃんとやってもらいたい。</p>	
<p>物流と人流の観点から、道路及び交通量をしっかり吟味するということは必然。賑わい創出で物流が盛んになれば、今の道路からはオーバーフローするので、そのことによる様々な障害についてあらかじめ検討し、公共交通網含めたアクセスについてしっかり検討していただきたい。</p>	

○検討委員会で議論された4つの論点についての主な意見(3/4)

4つの論点	主な意見
景観への 配慮	桜島を抱(いだ)く借景は、唯一無二のもの。鹿児島に住んで良かったなというシビックプライド(県民の誇り)は非常に大きなキーワード。鹿児島に住んで良かったと思わせるようなエリアであれば、おのずと観光客も集まってくる。
	世界でも稀な、活火山を背景に抱(いだ)く極上のウォーターフロントエリアであることを再認識すべき。ウォーターフロント開発について、世界に多くの成功事例があるが、根底にあるのは地元住民に支持され愛されているということであることをもう一度リマインドすべき。
	景観資源を主軸とした活用という点で、このエリアから眺める桜島と錦江湾という景観は、何物にも代え難い資源。その景観資源を私達が日々の暮らしの中でどう結びつけていくのか、この場所でどう過ごしたいのかということ、1人1人が想像して、ワクワクできるような場所であってほしい。
	県民全体のものとして、ウォーターフロントパークは守る。
	海辺の景観、特に海に親しめる空間を残し、シビックプライドとしての景観を保全した上で、ここの土地利用、まちづくりをどうするかということを考えていく必要がある。
	シビックプライドの観点で、本港区のウォーターフロント地区の価値を、経済効果や収益性のために使い果たしていいのかという議論もすべき。全部使ってしまうのではなく、シビックプライドのために残しておくことが必要。収益性につながるからと言って100パーセントそこを活用するのは問題あり。次の世代のために景観資源を消費しきらないということも大事な視点。
	今回の検討委員会の最終的なアウトプットであるゾーニングに加えて、デザインをどうするか、空間の整備と保全の方向性をどうするかまでしっかりと議論を進め、市民、県民の方に提示して納得いただくという委員会としての役割があると認識。
	景観を阻害するような高い建物が立つことには否定的だが、新たな総合体育館をこのエリアに設置する意義についても理解できる。ウォーターフロントパークは保全されるということで、景観資源を最大限活かすということを前提に計画の検討の余地はある。
	ウォーターフロントパークは、更に公園としての機能を充実させ、スポーツ・コンベンションセンターと一体的に整備することも必要ではないか。
	景観マネジメントの組織化という点で、自然だけではなく、人やモノがこの場所できつていく新たな景観というものも、まちの魅力につながっていく中で、デザインの発想というのが不可欠。本港区全体のデザインコントロール、エリアマネジメントが必要なのではないか。
	建物も含めての景観について全体イメージがないといけない。
	(ウォーターフロントパークとスポーツ・コンベンションセンターの)ちょうど間に臨港道路南北ふ頭線があるが、ここのデザインがすごく大事。(ウォーターフロントパークとスポーツ・コンベンションセンターの)どちらからも自然につながるようにすべき。道路のところを本当にきちんとつくらないといけない。逆に言うと、道路を少し変えることも含めて、色々いいデザインにすべき。
	スポーツ・コンベンションセンターは、ボリュームがあり、外側は壁になりがちなので、道路側(ウォーターフロントパーク側)に魅力的な空間をつくるというようなことをあらかじめ考えておかないと、スポーツ・コンベンションセンターとウォーターフロントパークが別々の感じできてしまうとすごく困るという感じがする。
景観への配慮は、具体的にどういった形で保全するのかなど、より精度の高い検討をする必要があるが、この委員会だけで検討するのは難しいので、その体制をつくって検討を進めていただきたい。	

○検討委員会で議論された4つの論点についての主な意見(4/4)

4つの論点	主な意見
中心市街地との連携	本港区エリアのグランドデザインは、鹿児島自身のまちづくりのグランドデザインと一体化させ、市もしくは県のまちづくりの全体像の中で、この本港区エリアはどのような位置付けか、もっと大きなグランドデザインの中で絵を描いていくことが必要ではないか。
	人流の回遊性や連動性をいかに持たせるかは非常に重要。天文館から本港区エリアは微妙な距離だが、車での移動ではなく、歩けるまち、自転車での回遊など、回遊性が高まれば高まるほど経済効果は大きくなる。
	(スポーツ・コンベンションセンターがある本港区側では) たくさんの人が回遊してもらって、天文館の方に流れていくような仕組みを、外とつなぐ仕組みをつくっていくということも必要。
	ドルフィンポートを中心とした本港区のまちづくりは、本港区エリアでやらなければいけないことと、周りの中心市街地のできることに役割分担と相乗効果を考える必要がある。
	アフターコンベンションが大きな魅力であり、天文館は非常に大きな武器になり得る。
	中心市街地というのは、大きく中央駅と、天文館地区と、ウォーターフロント地区と3つに分かれているので、同じような街をつくっても、回遊は生まれない。今、中央駅と天文館地区は、商業という意味ではほぼ競合している。それぞれキャラクターを出した方がいい。
	マリンポートから中心市街地へ向かうのに、陸路では交通渋滞で時間を無駄にするので、本港区に中継地をつくって、マリンポートから高速船で繋ぐことが必要ではないか。
世界の有数なクルーズ会社が鹿児島に寄せたいというふうになっているが、残念ながら一銭も落とさない。マリンポートから(中心市街地へ)はウォーキングディスタンスではない中で、どうやってウォーターフロントや天文館に引っ張ってきて、そこでお金を落としてもらうかのまちづくりがメイン戦略の重要な一つ。	

○県民から寄せられた利活用のアイデアのとりまとめ

「賑わいのターゲット」と「鹿児島（本港区）の魅力」の整理（1/6）

- 県民からの様々な目配りや気づきといったものをなるべくすくい上げ、ゾーニングの議論に取り込んでいくと良いのではないかといた御意見があったことなども念頭に、第2回検討委員会 森下委員提出資料「英国の観光戦略」を参考に、県民から寄せられた利活用のアイデアから、本港区に賑わいをもたらすペルソナ（「賑わいのターゲット」）を整理した上で、求められる魅力（「鹿児島（本港区）の魅力」）や導入機能を検討しました。

第2回検討委員会 森下委員提出資料「英国の観光戦略」より

【ターゲットとするJapanマーケットのペルソナ】

1. 将来政治やビジネスのリーダーとなるような大学生
2. 家族旅行
3. 子供がいない共働きのカップル
4. 子供が独立した親
5. 定年退職後のシニア
6. 出張後に観光する職業人

○県民から寄せられた利活用のアイデアのとりまとめ

「賑わいのターゲット」と「鹿児島（本港区）の魅力」の整理（2/6）

	いただいた御意見（実際の御意見から抜粋（※一部加工））	賑わいのターゲット（例）	鹿児島港（本港区）の魅力（例）※
1	<ul style="list-style-type: none"> マリンポートに寄港するクルーズ船の乗船客を高速船で北ふ頭へ運び、中心市街地へ誘導することで回遊性が図られると考える。 大型クルーズ船の乗客には、マリンポートからDP跡地まで運行する臨時バス路線を設定し、2〜3時間でもオアシス的場所でくつろいでいただくような提案も考える。 観光（国内客・国外客）に力を入れるなら、大型観光バス100台〜200台程度の駐車場は必要。大型の免税センター（県内特産品）を中心にバスターミナルを設置。桜島フェリーを利用して、世界の美港に負けない鹿児島湾クルーズ・桜島周遊の食事付き観光に力を入れる。その場合、本港区の免税センターや観光センターが中心となる。 	（マリンポートかごしまに）大型クルーズ船で訪れる観光ツアー客（団体旅行者）	<ul style="list-style-type: none"> マリンポートかごしまや鹿児島市中心部との交通結節点 情報交流，憩いの場 船から見た港や街並みが美しい空間
2	<ul style="list-style-type: none"> 鹿児島らしい観光スポットや飲食店，ホテルが立ち並び、世界の富裕層が集うイタリアのミラノのようなヨットハーバーがあり、そして夜景もきれいな函館や神戸のような明るい海辺がある施設は魅力があります。 鹿児島の魅力を前面に出すリゾートホテルとして最高の立地です。桜島を目の前に眺めることができ、鹿児島の美味しい肉や魚を堪能し、おしゃれな焼酎バーがあってもいいかもしれません。開放感があり非現実的な空間が期待できます。 海には大型ヨットに限ったハーバーを作り、海外からの立ち寄りを受け入れる。南仏の港のイメージである。 北埠頭は大小クルーズ船の専用岸壁とし、その背後にはターミナルを設けて、それに隣接する鹿児島には無い商業施設やホテルを設ける。また、大型のクルーザーやヨットも泊められたら、ウォーターフロントパークからの眺めも最高ではないだろうか。 世界的寄港地と肩を並べる鹿児島になりませんか？世界の海の男たち、特に海軍に尊敬の念を持って称えられているアドミラル東郷が多賀山から見下ろす錦江湾に世界中のヨット、クルーザーが停泊している姿を想像してみてください。 	スーパーヨット等で訪れる超富裕層	<ul style="list-style-type: none"> 鹿児島市中心部との交通結節点，回遊性 情報交流，憩いの場 船から見た港や街並みが美しい空間
3	<ul style="list-style-type: none"> このエリアは南九州最大の繁華街である天文館から徒歩圏内にあることから、人々が交流し憩う場があれば多くの人が回遊することが期待され、同時に、観光立県を標榜する鹿児島県としてはインバウンドを含めた県外客も楽しめる場ともなります。 巨大道の駅が良い。桜島が見える。鹿児島弁が聞こえる。足湯がある。鹿児島側からの押しつけではなく、他県人が鹿児島に求めるもの。 巨大な観光案内所（資料館，物産館など）。鹿児島の歴史が学べたり，観光地を紹介したり食材の紹介であったり温泉を紹介であったり，鹿児島に観光に来た方が案内所に来る事でSNSでも見れないような生の声で観光プランを組んであげたりするような場所。 観光客をはじめ全ての人が，鹿児島の興味のある場所へ行くことに繋がる「発信地」として，鹿児島の歴史と文化に満ちた多くの観光地を現代の技術を駆使して紹介するような施設。鹿児島全域の案内や説明に長けた人材が常駐して，鹿児島各地に存在する唯一無二の魅力的な場所へと案内し，橋渡し役となる重要な施設。 	鹿児島県内の観光地を訪れる観光客（個人旅行者）	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通，車，徒歩など多様なアクセスが可能な場 情報交流，憩いの場

※全ての項目について、「桜島の魅力を楽しめる空間」は共通

○県民から寄せられた利活用のアイデアのとりまとめ

「賑わいのターゲット」と「鹿児島（本港区）の魅力」の整理（3/6）

	いただいた御意見（実際の御意見から抜粋（※一部加工））	賑わいのターゲット（例）	鹿児島港（本港区）の魅力（例）※
4	<ul style="list-style-type: none"> 現在の離島航路や、桜島航路も、生活航路であるとともに、天然の観光魅力にあふれた航路であるから、離着岸施設の工夫や海の観光PRに力を入れ、収益の道を探してほしい。 離島航路利用者の利便性改善。点在している離島航路フェリーターミナルの利便性向上のために集約化等を実施。ターミナル集約化等に伴う、バス・タクシー等公共交通とのアクセス改善。 離島便へのアクセス。水族館も繋がりに行ける道、フェリー乗り場も繋げて。目的を沢山持たせた施設でなければ人がたえてしまいます。 北ふ頭旅客ターミナルを活用している唯一の航路、喜界航路は南ふ頭に移動させ、北ふ頭は小型・中型のチャーターを含む観光船の発着場にすればいいと思います。 北埠頭にある喜界航路を移転整備する。安全な荷役が必須である港湾機能の確保と賑やかさを求める港湾交流機能の活性化との間に、水と油のような相反性があるため、共存よりは移転整備することを提案する。 喜界・奄美航路は北埠頭南側に発着させ、規模に見合った施設を再整備することが良いかと思います。 鹿児島港の各埠頭は最も北の桜島埠頭から南端の鴨池埠頭方面別に点々と分散しており、航路同士の乗り継ぎや市街中心への利便性は高いとは言えない状況にあります。南北に分散している離島ターミナルを数珠繋ぎにするようにモノレールまたは新交通システムを構築していくことは離島航路の利用促進はもちろん、鹿児島ウォーターフロント地区の将来像を大きく変えていく可能性があります。 いづろからドルフィンポート跡地前から住吉地区まで市電を延長すれば、高速船や離島航路の利用者（現状はいづろから重い荷物を引きずりながら歩いている方が非常に多い。）の利便もよくなります。 	<p>離島にお住まいで離島航路や本港区をご利用の方</p>	<ul style="list-style-type: none"> 利便性の高い交通結節点
5	<ul style="list-style-type: none"> スケボーパークとストリートダンスができる場所を作ってほしいです。若者が楽しめる街を若者のための街づくりをお願いします。東京の真似じゃなく独自の世界観で世界中から人が集まる鹿児島を希望します。 スケートボード片手に公園に訪れる少年たちは？子供だけではなく、大人一歩手前の若者にも公園を利用してほしい！オリンピックなどから注目が増え始めたスポーツ競技をする場所をつくりたい。本気で遊びを楽しめる、何歳になっても本気になれるものができる空間を。 eスポーツは子供から高齢者まででき、身体障害者でもできます。eスポーツ施設はその全ての者が交流できる場所になるということです。まだまだ発展途上であり、これを民営ではなく行政が力を入れることに意味があると思います。 若者は決して広くて大きなショッピングモールや遊戯場は求めていません。例えばデートどこ行く？じゃあとりあえず行って決めるかみたいな感じの場所がほしいのです。バスに乗って電車に乗って行き、公園もあれば美術館でその人との思い出プラスその時見た美術品を自分の思いのままにでき、ちょっとした店があり、開けた景色を一望し、見慣れた桜島を見て今日もいつもと変わらないと思うそれはとっておきの場所です。 もしアートで生まれるコミュニケーションの中に桜島があったら。語り合う人々の目に、桜島が映ったら。多くの人が桜島をもっと身近に感じ、そして気づかなかったことに気づかせてくれるのではないのでしょうか。鹿児島にしかない魅力を、アートの力、つまり人を笑顔にし感化できる力で県民の方々にも県外から来られた方にも発信していける。そんな場所が欲しいのです。 	<p>趣味や遊びを楽しみ交流を深める若者</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相互交流を育む空間

※全ての項目について、「桜島の魅力を楽しめる空間」は共通

○県民から寄せられた利活用のアイデアのとりまとめ

「賑わいのターゲット」と「鹿児島（本港区）の魅力」の整理（4/6）

	いただいた御意見（実際の御意見から抜粋（※一部加工））	賑わいのターゲット（例）	鹿児島港（本港区）の魅力（例）※
6	<ul style="list-style-type: none"> 鹿児島県は観光県でもあるため、「稼ぐ」ことが優先され県民の生活の質の向上は後回しにされる印象がある。まずは県民がそれぞれの目的で集いやすい多目的な場所となり、そこが評判となって観光客も訪れる。その順序が守られることを強く願う。 桜島と錦江湾を眺望しながら人が賑わうスペースの創出を提案する。程よくできたたまり場にストリートカルチャーが生まれ、休日には移動販売車の店が立ち並ぶ。グランピング、公園・広場の機能を掛け合わせ、非日常と日常の人がともに憩うサードプレイスになり多くの人にとって開かれた場所になることを期待する。 憩いの場、ふれあいの場、成長の場として老若男女過ごせる広場が良いです。朝市を催し鹿児島の食と文化を堪能できる環境。夜はナイトマーケットを行うもよし、週末のフライデーフェスや骨董市、蚤の市、フリマ、オーガニックフェスタなど。薩摩は人をもって城となす。人を1番に考えた選択肢をご検討ください。 子連れで楽しめるエンターテインメント港町という雰囲気にする！！子連れでも安心できるトイレかその他利用できるスペースを作る。ゆったりとお散歩できて、オシャレな買い物もできて（服飾雑貨）。子供をあずけてパパとママが1時間ほどデートできたり。ここへ来ることで、ストレスフリーになり、良い気持ちになれるように、自由参加型の運動レッスンをしてほしい。（ヨガ、太極拳、その他トレーニングなど） 健康増進等のために桜島と錦江湾を背景に野外ステージ、散策、ジョギング、サイクリング等で多くの人々が集い、憩いの場となる海岸通り公園のような観光客と市民が一体的に楽しめる空間を創造する。 スポーツ・コンベンションセンターと併せて、多くの利用者が交流可能で心身と社会的な健康を向上させる多目的緑地スペースも確保します。 	より豊かで充実した日々の生活を過ごす方	<ul style="list-style-type: none"> 癒やしを与え、心身と社会的な健康を高める空間
7	<ul style="list-style-type: none"> 隣接のウォーターフロントパークと合体させて南九州随一の多目的型の「公園」にしませんか？国内外のデザイナーに公募してぜひ全国から鹿児島に行ってみたくなるような場所を作りませんか？個人的にはニューヨークのセントラルパークみたいになるといいなあと思います。 本港区エリア全体を大規模な公園として整備し、県民だけでなく観光客にも錦江湾越しの桜島の絶景を楽しみ・くつろげる場として提供する。 本港区にある錦江湾と桜島の雄大な景観は、何物にも代えがたい鹿児島の財産である。この自然景観を保全し、市民の誇り、心の拠り所、憩いの場として緑地公園を整備し、後世にいつまでも大切に遺してほしい。 桜島を前面に見据えた、他所にはない貴重な景観を生かす観光施設を作る。緑地公園を作り、花々を植え、季節ごとにイベントを行ったり、何もなくても誰もが桜島を見ながら憩える場にする。噴水があってもいい。丸い小さなプールがあってもいい。 桜島が見える港町として、桜島を見ながらのんびり散策ができる場所にする。公園を整備し、ベンチや芝生でのんびりできる。海沿いの遊歩道を整備し、桜島+海で映えスポットになる。 私が本港区と聞いて連想するのは、デッキから見える青々とした海と悠々と佇む桜島です。小さい頃はドルフィンポート広場の、あの明るい雰囲気が好きでよく連れて行ってもらっていたことを思い出します。家族連れの賑やかな声の中、桜島に見守られているような場所だと感じました。 桜島や錦江湾を眺め、大きな樹の下で子どもたちを昼寝させ、緑の芝生の上で駆け回ることができる。海と何もない風景。何もないことに意味がある。鹿児島らしい時間を過ごすことのできる貴重な場である。 	本港区周辺に宿泊／お住まいで桜島を見ながら散策を楽しまれる方	<ul style="list-style-type: none"> 徒歩による回遊を楽しめる連続的な空間 憩いの場

※全ての項目について、「桜島の魅力を楽しめる空間」は共通

○県民から寄せられた利活用のアイデアのとりまとめ

「賑わいのターゲット」と「鹿児島（本港区）の魅力」の整理（5/6）

	いただいた御意見（実際の御意見から抜粋※一部加工）	賑わいのターゲット（例）	鹿児島港（本港区）の魅力（例）※
8	<ul style="list-style-type: none"> 鹿児島は子供を連れて遊びに行く所が少ないように思います。九州以外のところからも観光客を呼ぶには、もう少し鹿児島で遊ぶところが欲しいです。子供を連れていく所がないよね…と親友達で話をしています。 子連れ家族の旅行では、旅行先での行動/移動範囲が制限されるため、複数の観光体験がパッケージ化されて家族で一日過ごせる複合施設を訪問先として選ぶことが多い。現状の鹿児島本港区は、滞在時間も短い。鹿児島本港区で、複数の観光体験が可能な複合施設を導入することを提案する。 私は鹿児島市本港区エリアを「鹿児島のイベントの中心地」として整備すべきと考えます。 体育館もスタジアムもスポーツイベント以外の大規模イベントに利用されることが今では当たり前となっています。県内でも有数の大規模イベント開催の実績があるウォーターフロントパーク、そして8000人収容予定の県体育館、15000人から20000人の集客能力が見込まれるサッカー等専用スタジアムとそれぞれの施設を活かし多彩なイベントを開催し、ランドデザインにある「来て見て感動する観光拠点」を目指します。 汎用的で芸術性のあるスタジアム施設が良いと思います。サマーナイト花火大会の際には有料席としても使えますし、夜には桜島側にスクリーンを張って野外シアターとして運用するのも面白いと思います。活火山を背景にライブをやりたいと思う有名アーティストが来鹿する機運も生じるはず。県全体の財産となる、壮大なスタジアムを建設するプロジェクトを示してもらえば、こちらとしても心が躍るというもの。また、鹿児島駅から天文館を通ってスタジアムにいけるルートができれば、その先でサポーターが飲食をし、景観を写真に撮って発信し、鹿児島での体験を日本中、世界中で紹介できると考えます。私は昨年、新潟から来鹿した際たくさんのツイートをしました。それを観たフォロワーの方から「鹿児島を旅しているようで楽しかった。」「鹿児島に行きたくなった。」「鹿児島ユナイテッドFCの試合を見に行くと100円の芋焼酎が飲みたい。」等声を掛けてもらいました。 地域活性化・憩いの場・健康増進の場としてのコミュニティ機能を持ち、鹿児島の新たなランドマークとなる施設を是非とも鹿児島本港区に作って欲しい。世界でも珍しい活火山を見渡せるスタジアムだったり、景観を生かしたスポーツ施設がある事によって、シドニーのオペラハウスのように世界中から一度は行ってみたい施設になると考える。またスポーツツーリズムを通して来鹿する観光客も見込めると思う。そういう意味で、新スタジアムと新体育館は本港区内に必要。人が集まりやすいところに、人が集まる施設を作るのは地元の人にも観光客にも親切。繁華街も近いので、天文館を中心に県内全域にお金が落ちる施策や施設を本港区に創設して欲しい。本港区は市民県民はもちろん、観光客が喜ぶエリアにして欲しい。 	<p>ハレの日を楽しむ家族連れや若者</p>	<ul style="list-style-type: none"> お出かけの目的地としての魅力を持つ空間 参加、体験の場

※全ての項目について、「桜島の魅力を楽しめる空間」は共通

○県民から寄せられた利活用のアイデアのとりまとめ

「賑わいのターゲット」と「鹿児島（本港区）の魅力」の整理（6/6）

	いただいた御意見（実際の御意見から抜粋（※一部加工））	賑わいのターゲット（例）	鹿児島港（本港区）の魅力（例）※
9	<ul style="list-style-type: none"> 鹿児島市が今後、世界にひらかれた国際都市として発展し、また、世界自然遺産を有する離島地域や沖縄への航路とも連動し、離島地域の振興にも寄与するものである施設が望ましいものと考えます。具体的には、同様に港湾地区に立地し、コンベンションセンターとしての役割を基本としながら、大規模なコンサートや国際会議、スポーツイベントにも活用されているマリンメッセ福岡が参考になるのではないのでしょうか。 鹿児島でも大きなイベントが行える様な施設を作るのも一つの考えかと思えます。マリンメッセ福岡のような施設に近いものが良いのかと思えます。学会からコンサート等幅広く使える施設が鹿児島にとっても必要な気がしています。 鹿児島県の未来を考えるうえで、今後も中心地としての利用が想定される本港区エリアでのまちづくりには、交通等の中心機能や桜島を臨む景観といった魅力を持つ都市空間の有効な活用とそうした魅力を発信し体感できる拠点や全国規模のスポーツ大会・国際会議等を開催できる施設が必要である。 コンベンションセンターに国際学会等の国際会議ができる機能設備があると海外の観光客増にもなる。展示会には講演会がセットで行われる場合が多い。 	<p>各種大規模イベントの参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> プロスポーツ大会 国際会議、学会、シンポジウム ライブツアーなど 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通、車、徒歩など多様なアクセスが可能な場 参加、体験（観戦、観覧）の場
10	<ul style="list-style-type: none"> 本港区エリアはオフィス街も比較的近いので、コワーキングスペースがあれば、平日も利用客が訪れる可能性が高い。 鹿児島のシンボル桜島が見える場所で、Uターン、Iターン希望者に起業の場を提供し、マルシェに集まるお客様との交流を通して事業を軌道に乗せ、県内各地で本拠地を構えるための『巣立ち』を支援する。 北ふ頭のターミナルビルは、クルーズ船等の受入のための機能は残しつつ、事業者のオフィスとしての機能やイベントスペース、エンターテイメント空間として多くの人々が自由に活用できるスペースとしての利用が考えられる。 	<p>新しい働き方を選択するビジネスパーソン</p>	<ul style="list-style-type: none"> 働く場（ビジネスセンター） 公共交通、車、徒歩など多様なアクセスが可能な場

※全ての項目について、「**桜島の魅力を楽しめる空間**」は共通

○県民から寄せられた利活用のアイデアのとりまとめ

○ 本港区エリアのまちづくりに対する期待の整理

- 第4回検討委員会でのポスターセッションやプレゼンテーションでは、提案者と検討委員、または、提案者相互の質疑応答や意見交換、交流が行われ、それぞれの利活用のアイデアが千差万別であるものの、提案者同士で共感でき、共通項となる期待、想いのようなものがあることができました。
- このため、ゾーニングの検討を進めるに当たり、県民からの利活用に関するアイデアから、県民が共感し共有できる本港区エリアのまちづくりに対する期待をキーワードを整理しました。（KJ法※により、県民から寄せられた利活用のアイデアにおいて、どのような空間としたいかを表現したキーワードから整理）
- 整理した本港区エリアのまちづくりに対する期待について、賑わいのターゲットや導入機能の検討、ゾーニング素案に活かしました。

※KJ法：断片的な情報・アイデアを効率的に整理する目的で用いられる手法。一般的に、KJ法では、カード状の紙（付箋）に1つ1つの情報を記し、そのカードを並べ変えたり、グルーピング（グループ化）したりすることで、情報を整理する。「KJ」は、考案者である川喜田二郎氏のイニシャル。

【参考】

- 横浜市では、教育文化センター跡地活用事業を通じて、望ましいまちづくりを進めるため、関内駅周辺地区の新たな方向性を示すとともに、教育文化センターの跡地活用に期待するものとして、複数の望ましい活用イメージの例を示すため、平成29年に「関内駅周辺地区AREA CONCEPT BOOK」を策定し、まちづくりの方向性について、次のとおり掲げている。
「国際的な産学連携」「観光・集客」の新たな拠点ができる街／スポーツ・健康を通じた新たな価値が生まれる街／文化芸術活動や企業活動が生まれる街／風格のある景観を有し、環境にも配慮された街
- また、同市では、新市庁舎（令和2年竣工）の整備にあたり、横浜市の考える市庁舎における、広い意味でのデザインや、新市庁舎がまちづくりで果たすべき役割について、事業者はもとより、市民の方々にも事前にお伝えし方向性を共有することで、広く愛される新市庁舎を実現するため、平成27年に「横浜市新市庁舎デザインコンセプトブック」を策定し、「新市庁舎のミッション」について、次のとおり掲げている。

～開港の街から持続可能で豊かな国際都市へ～

人、自然、街がつながる開かれた市庁舎を具現化し、
市民と共にOPEN YOKOHAMAを創出する。

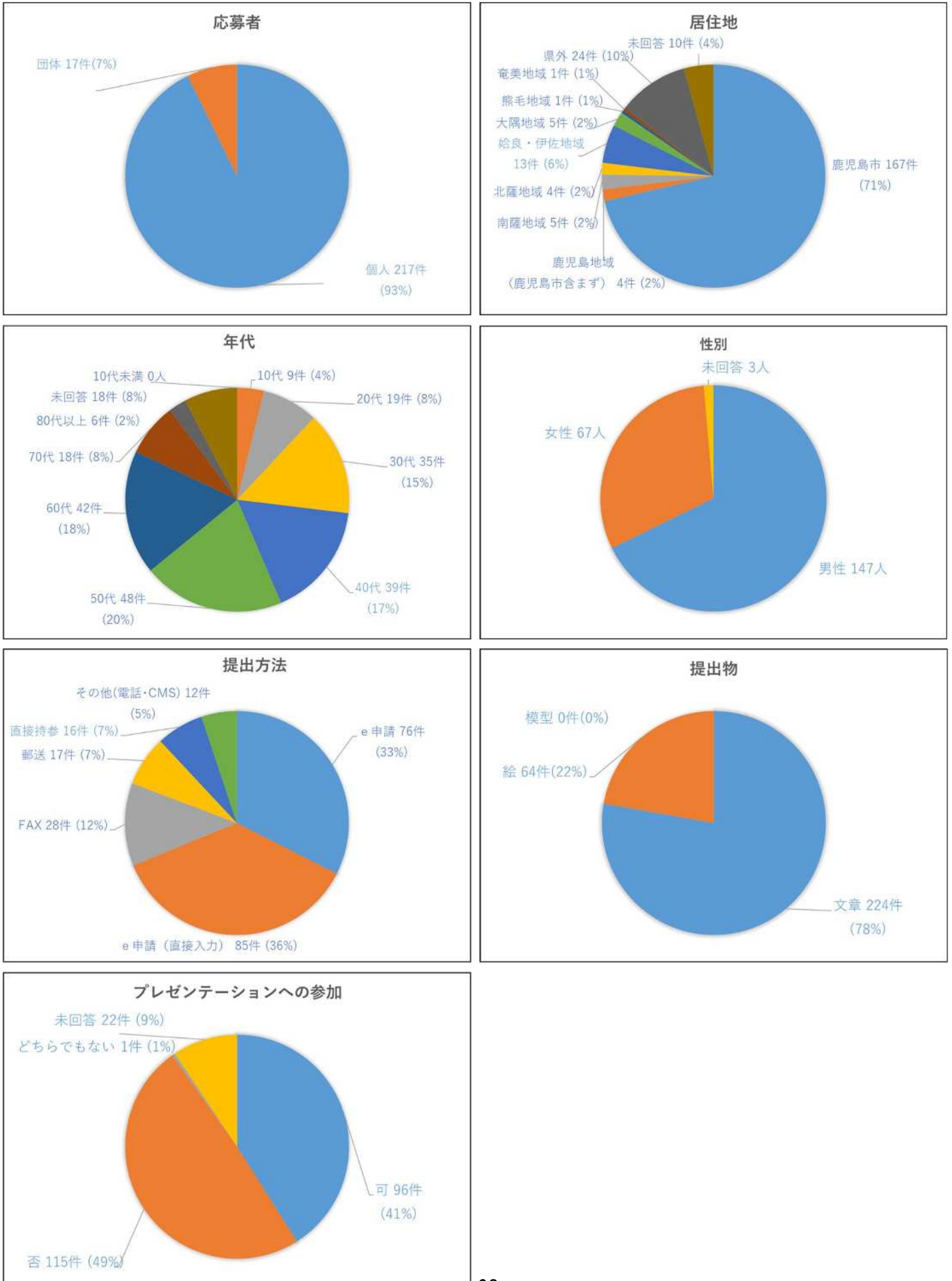
○まちづくりのヒントとなるキーワード

県民から寄せられた利活用のアイデアから、本港区エリアのまちづくりを進めていくに当たっての参考となる、まちづくりのヒントとなるキーワードを抽出。

- 公園名の公募 ●駐車場の地下化 ●シンボル施設 ●モニュメント ●オブジェ
- 鹿児島初 ●運動器具 ●アスレチック
- イベント（ワークショップ、ミュージアルフェスティバル、骨董市、蚤の市、大道芸、釣り、ナイトマーケット、フラダンスフェスティバル、野外コンサート、クラシックカー）
- 遊園施設 ●ブランコ ●太陽光発電 ●ガラス張り ●国道58号の起点 ●丘陵状配置
- ペット ●ドッグラン ●キッチンカー ●噴水 ●バラ園 ●桜並木 ●森 ●ボート
- ビーチ ●キャンプ ●デーキャンプ ●バーベキュー ●ランニング ●ウォーキング
- ジョギング ●展望台 ●展望スペース ●カラフルカラー化 ●壁面アート
- 動く歩道 ●花壇 ●ソーラー花時計 ●ガス灯 ●桜島や錦江湾のジオラマ ●CG
- 音楽 ●野外音楽堂 ●ジャズ ●ロック ●温泉 ●足湯 ●Earthing(アーシング)
- スケート ●スポーツ ●サッカー ●キッズスペース ●コンテナハウス
- テーマ型施設（美術、芸術、文化、音楽、スポーツ、フィッシャーマンズワーフ、アミューズメント、避難・防災、道の駅、レジャー、育児・託児、屋台村、ミュージアム、映画村、観光案内、博物館、海と一体化した海洋型観光、ワークショップ、ものづくり体験）
- サーキュラーシティ ●ゼロカーボンシティ ●シェアキッチン ●ファウンディング
- 屋上庭園 ●アニメ ●ボードウォーク ●コラボ ●オープンテラス ●マルシェ
- オープンカフェ ●縁日 ●災害時の活用 ●キックボード ●メガフロート
- 貸出パラソル ●円形劇場 ●プロジェクションマッピング

○利活用のアイデアに関する県民意見募集

県民意見募集の結果（234件）について、居住地、年代などの区別に円グラフにて表した。



○ポスターセッションとプレゼンテーション

ポスターセッション

- ・日 時：令和5年7月22日（土）10:00～16:00
（うち、コアタイム※ 10:30～11:30, 13:30～14:30）
令和5年7月23日（日）午前10時～午後4時
（うち、コアタイム※ 10:30～11:30, 14:30～15:30）
- ・場 所：鹿児島港本港区北ふ頭旅客ターミナル2階
- ・来場者数：令和5年7月22日（土） 151人
令和5年7月23日（日） 206人
2日間合計 357人

※コアタイム
ポスターセッション参加者と
検討委員会委員が、集中的に
意見交換する時間帯

ポスターセッション



ポスターセッション



プレゼンテーション

- ・日 時：令和5年7月24日（月）13:30～17:10
- ・場 所：鹿児島港本港区北ふ頭旅客ターミナル2階
- ・プレゼンテーション参加者：7者
- ・来場者数：122人

プレゼンテーション



プレゼンテーション



○鹿児島港本港区エリアの利活用にかかる検討委員会

1 委員 (15名)

氏名	役職名
ありま かつまさ 有馬 勝正	(一社)鹿児島市商店街連盟 会長
ありむら かずあき 有村 和晃	鹿児島県旅客船協会 会長
ありやま こ 有山 まり子	消費生活アドバイザー
いわざき よしたろう 岩崎 芳太郎	鹿児島商工会議所 会頭
おおた まさたか 太田 正隆	(株)JTB総合研究所MICE戦略室 主席研究員
おおにし えいじろう 大西 英二郎	鹿児島港運協会 会長
きかた じゅんね 木方 十根	鹿児島大学大学院 理工学研究科 建築学プログラム 教授
きたざき こうじ 北崎 浩嗣	鹿児島大学 法文学部 法経社会学科 教授
ごうはら しげき 郷原 茂樹	環錦江湾ネットワーク 代表
つまがり さだとし 津曲 貞利	鹿児島経済同友会 特別幹事
にしむら ゆきお 西村 幸夫	國學院大學 観光まちづくり学部長
ますもと よしゆき 升本 喜之	(一社)ツール・ド・九州 理事・事務局長 (一社)九州経済連合会)
まつやま よしひで 松山 芳英	鹿児島市 副市長
もり まさのり 森 正則	(株)日本政策投資銀行南九州支店長
もりした まさみ 森下 晶美	東洋大学 国際観光学部 国際観光学科 教授

2 アドバイザー

組織名等
国土交通省 九州地方整備局 鹿児島港湾・空港整備事務所 (所長)

3 オブザーバー

組織名等
奄美市 (総務部長)
鹿屋市 (市長公室長)
霧島市 (企画部長)

検討委員会の経緯

年度	開催日時	主な協議事項
令和4年度	12月23日	[第1回検討委員会] 現状説明、今後のスケジュール、 鹿児島市の意見(サッカー等スタジアム)、 意見交換
	1月25日	[第2回検討委員会] 商工会議所の意見(まちづくりビジョン)、 意見交換、県民からの意見募集の手法等
	3月28日	[第3回検討委員会] 環錦江湾ネットワークの意見 (錦江湾を活かした都市デザイン)、意見交換、 令和5年度のスケジュールと視察候補箇所
令和5年度	5月19日	[第1回幹事会] 利活用のアイデアに関する意見の取りまとめ方法(案)、 プレゼンテーションの方法(案)
	6月12日～13日	[実地調査] 香川県高松港、長崎県長崎港
	7月22日～24日	[第4回検討委員会] 利活用のアイデアに関する ポスターセッション及びプレゼンテーション
	8月29日	[第2回幹事会] ゾーニング案の検討の進め方(案)
	9月6日	[第5回検討委員会] ゾーニング案の検討の進め方、 ゾーニング素案の協議・検討
	11月2日	[第6回検討委員会] ゾーニング素案の協議・検討
	12月27日	[第7回検討委員会] ゾーニング素案の協議・検討
	1月24日	[第8回検討委員会] ゾーニング案の取りまとめ

検討委員会



幹事会



○鹿児島港本港区エリアの利活用にかかる検討委員会

鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会設置要綱

(名称)

第1条 この委員会は、鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会（以下「委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 委員会は、鹿児島港本港区エリア一帯の利活用について、スポーツ・コンベンションセンターの基本構想や港湾としての機能を踏まえつつ、県全体に経済効果を波及させていくという視点を念頭に置いて、ランドデザインの開発コンセプトに基づき、同エリアの利活用の全体像の検討を行うことを目的とする。

(委員)

第3条 委員会は、知事が委嘱した委員で構成する。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員長は、委員の互選で選出する。

2 委員長は、委員会を代表し、委員会の会務を総括する。

3 委員長が不在のときは、あらかじめ委員長の指名する委員が委員長代理としてその職務を代行する。

(委員会の会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員長は、委員会の会議の議長となり、議事を整理する。

3 委員長は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めることができる。

(幹事会)

第6条 委員会の円滑な運営に資するため、幹事会を置く。

2 幹事会は、知事が委嘱した幹事で構成する。ただし、委員が幹事を兼ねることを妨げない。

3 幹事会に座長を置き、座長は、委員長代理が務める。

4 座長は、幹事会を代表し、幹事会の会務を総括する。

5 幹事会の会議は、座長が招集する。

6 座長は、幹事会の会議の議長となり、議事を整理する。

7 座長は、必要があるときは、幹事以外の者の出席を求めることができる。

(委員会及び幹事会の会議の公開)

第7条 委員会及び幹事会の会議は、公開とする。ただし、委員会で協議の上、非公開とすることができる。

(委員会及び幹事会の事務局)

第8条 委員会及び幹事会の事務局は、鹿児島県土木部港湾空港課本港区まちづくり推進室に置く。

(雑則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会と幹事会の運営に関し必要な事項はそれぞれ、委員会については委員長が、幹事会については座長が別に定める。

附則

1 この要綱は、令和4年12月9日から施行する。

2 第5条第1項の規定にかかわらず、委員会設置後の最初の委員会の会議は、知事が招集することができる。

実地調査



香川県 高松港

実地調査



長崎県 長崎港

○用語集

新たなモビリティサービス	地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスのこと。
アドベンチャートラベル	アクティビティ・自然・文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行
インクルーシブデザイン	高齢者、障がい者、外国人など、従来デザインプロセスから除外(Exclude)されてきた多様な人々を、デザインプロセスの上流から巻き込み(Include)、一緒にデザインを行っていくイギリス発祥のデザイン手法。
ウォーカブル	「歩く」を意味する「walk」と「できる」の「able」を組み合わせた造語で、まちづくりでは、居心地が良く歩きたくなるまちなかの創出の意で用いられる。
エリアマネジメント	一定の地域(エリア)における良好な居住環境等の形成・管理を実現していくための地域住民・地権者による様々な自主的取り組み。
フリンジ化(外縁化)	一定の地域(エリア)への自動車流入を抑制するため、周辺部(フリンジ)の駐車場でマイカーを受け止め、徒歩や公共交通に乗り換えて目的地まで行く取り組み。
コンバージョン	建物の用途を変更し、再利用すること。
シームレス	「縫い目がない・継ぎ目がない」こと。生活の中でも色々なシーンで使われる言葉で、例えば機能やサービスが連携していて、利用者にとって快適な状態などを「シームレス」と表現する。
ストリートファニチャー	ベンチ、案内看板、シンボル施設、モニュメントなど、屋外空間を演出するために設置される施設類。
スーパーヨット	一般的に外国人富裕層などが個人所有する全長80フィート以上(24m以上)の大型クルーザー。
ゾーニング	空間をテーマや用途に分けて、類似した性格の空間(区画)をグループごとにゾーンとしてまとめ、計画していくこと。
ターンアラウンド	船が寄港をしてから、乗船客や貨物などを降ろし、燃料補給や新たな乗船客や貨物などを積み、再び出発するまでの過程。
トランジットモール	都心部の商業地等において、歩行者の安全性の向上、都心商業地の魅力向上などを図るため、自動車の通行を制限し、歩行者と路面を走行する公共交通機関による空間を創出する取組。
ビジネスパーソン	会社員や個人事業主、フリーランスなどを含めた、企業で働く人やビジネスを営む人などの総称。
ファサード	建物を正面から見たときの外観のこと。
プロムナード	歩行者用の公共空間で、散歩、回遊することができる空間。
ペDESTリアンデッキ	駅前広場等において、道路上空に設置した歩行者専用の通路。
ボーディングブリッジ	ターミナルビルから客船に乗客や乗員を乗降させるための設備。
ランドスケープ	景色・風景という意味。建築やデザイン分野の間では、都市や公園、広場における空間のデザインのことを言う。
リバーシブルレーン化	渋滞緩和のために全幅3車線以上の道路において中央線の位置を時間帯によってずらし、交通量が特に多い方向の車線を特定の時間帯のみ増やす交通規制のことで、中央線変移と称される。
CIQ	税関(Customs)、出入国管理(Immigration)、検疫(Quarantine)の略で、人や貨物の国際的な移動の際に必要な出入国の手続及びその施設を指す。
TDM施策	交通需要マネジメント(TDM:Transportation Demand Management)。道路利用者に時間、経路、交通手段や自動車の利用法の変更を促し、交通混雑の緩和を図る方法。



PORT OF
KAGOSHIMA